

## 今週の見頃写真

8月26日編集

### ●動物編

#### ○ツキノワグマ

8月23日(日)午後、バーベキュー広場にツキノワグマの小熊が出ました。アリを探索・物色・捕食しながらせせらぎ広場へとゆっくり移動し始めました。せせらぎ(流水)を見つけると、せせらぎに入り、まず飲水し、その後、水浴を始めました。せせらぎから上がると、一度身震いし、水を払い落としました。日差しのある場所に出ると血を吸おうとウシアブ(アブ科)が何匹もまとわりついていました。真夏の餌が少ない時期のツキノワグマの生態観察は大切です。アリへの餌としての依存度が高いこともわかりました。また、この時期のツキノワグマのフンにはミズキの実が多く含まれていることを観察しています。



ウシアブに寄生されたツキノワグマ  
猪根平にて8/23撮影



ウシアブに寄生されたツキノワグマ  
猪根平にて8/23撮影



ウシアブに寄生されたツキノワグマ  
猪根平にて8/23撮影

#### ○ハシブトガラス(カラス科)

市街地でゴミを漁る印象がありますが、有峰にも生息しています。一日中活動していますが、早朝や夕方比較的涼しい時間帯に猪根平芝生広場に飛来し、ポンポンとリズムカルに二足歩行しながらバッタを探索・追出ししながら、捕食している様子を観察しています。バッタはこの時期の重要なタンパク源と考えられます。写真の2羽はつがいのようです。1羽がポンポンと地面を蹴るように二足歩行し始めると寄り添うようにもう1羽も追従していきました。

先日、残念ながら撮影することはできませんでしたが、小見線の道路上で、ヘビを襲い、銜えて飛び上がり、一度地面に落としてから、再度、銜えなおし、持ち去る同種の個体を観察しました。野生のカラスのしたたかさ、本来の生態を観察できました。



バッタ探索中のハシブトガラス  
猪根平芝生広場にて8/23撮影  
野生のカラスは何故か“凜”としています



寄り添うように行動する2羽のハシブトガラス  
猪根平芝生広場にて 8/23 撮影

●植物編

○ヤマブドウ (ブドウ科)

日本に野生するブドウの代表です。10月頃黒紫色に熟し食べられます。果実酒やジュースにも利用されます。ツキノワグマやニホンザルの食料ともなります。



熟す前のヤマブドウの果実  
冷タ谷キャンプ場にて 8/23 撮影

○ナツノハナワラビ (ハナヤスリ科)

ナツノハナワラビ、冷タ谷キャンプ場で見つけました。ハナヤスリ科に属するシダ植物の一つで夏緑性の草本です。長い茎の先に羽状複葉の栄養葉とやはり羽状に枝を出す胞子葉をセットに付けます。



冷タ谷キャンプ場の半日蔭の林床に生育  
冷タ谷キャンプ場にて 8/23 撮影

○シロバナアカツメクサ (マメ科) 発見!

猪根平芝生広場にてシロバナアカツメクサを発見しました。シロバナアカツメクサはアカツメクサの白花品種です。アカツメクサはヨーロッパ原産の道端、空き地に生える多年草、帰化植物です。普通のピンク色のアカツメクサに混じって咲いています。



猪根平で見つけたシロバナアカツメクサ (右手前)  
猪根平芝生広場にて 8/25 撮影



猪根平で見つけたシロバナアカツメクサ (左側)  
猪根平芝生広場にて 8/25 撮影